

福井大学医学部附属病院新病棟



建物概要・設計コンセプト

計画概要

●建設場所：福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

敷地条件

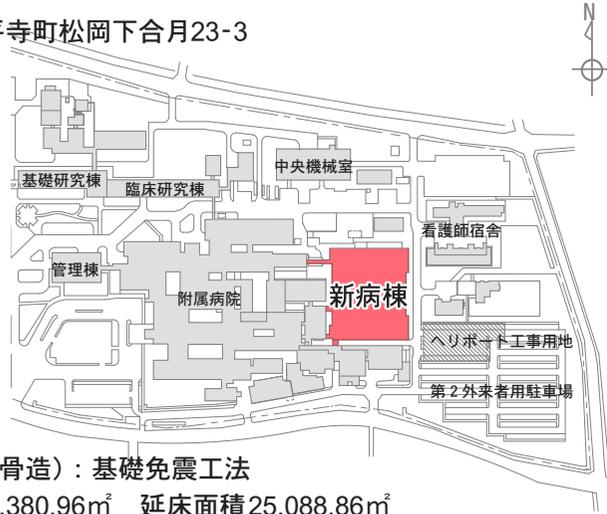
- ・面積 270,230㎡
- ・用途地域 第一種住居地域
- ・建ぺい率 60%
- ・容積率 200%

工期

着工：平成24年2月
完成：平成26年3月

構造・規模

鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）：基礎免震工法
地上8階／地下1階 建築面積5,380.96㎡ 延床面積25,088.86㎡



設計基本コンセプト

- ①療養環境重視の病院づくり
- ②次期整備までの数十年間、機能的な高度先進医療の提供(各部門の近接配置)
- ③将来の発展を約束する「ハブストリート」(将来の接続位置を限定しない廊下)の計画

□無停電電源設備

停電時に無停電で電源の供給を持続する事ができる蓄電池設備を配置しています。これによって、北陸電力からの給電が停止した場合でも、OPルームやICUの重要な医療機器や電子カルテ等の情報機器に給電を続ける事ができます。

□自家発電設備

自家発電機は、1200KVA (960KW) を2台設置し、大規模停電時に病院の運営に関わる重要機器に3日程度の給電を持続する事が可能です。

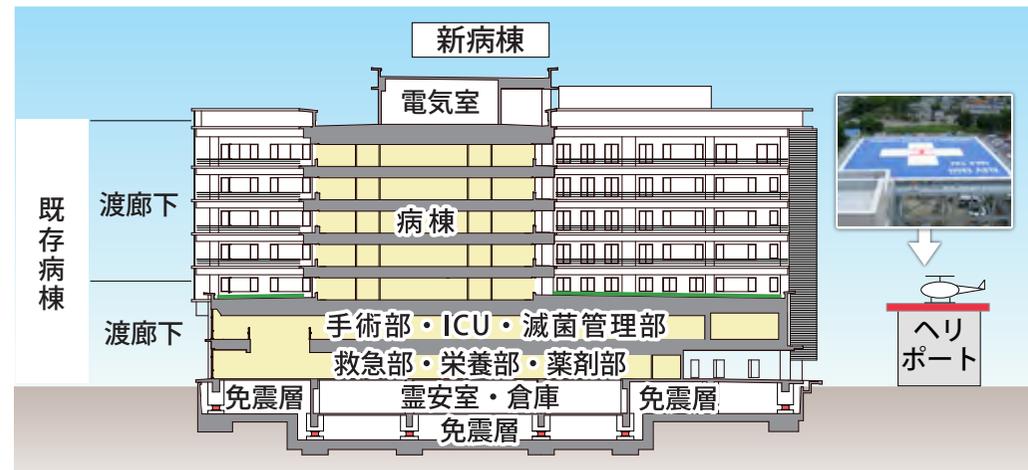
□電灯設備

新病棟の照明器具は室内灯及び外灯を含め、オールLED照明を採用しています。省エネかつメンテナンスフリーを実現しています。病室、デイコーナー等の患者さんのスペースは電球色を採用し、診察室やナースステーションの医療スペースは診療に影響の少ない白色の照明を採用しています。

病床数等

新病棟488床(病院全体で600床。残りの112床は既存棟改修時に整備する。)

センター名・病床数			配置部門等
8階			電気室
7階	北病棟	腫瘍センター 46床	血液・腫瘍内科、感染症・膠原病内科、放射線科、麻酔科蘇生科、脳脊髄神経外科、腎臓内科、歯科口腔外科
	南病棟	腎センター 44床	腎臓内科、泌尿器科、歯科口腔外科、緩和ケア
6階	北病棟	運動器センター 51床	整形外科・脊椎外科、リハビリテーション科
	南病棟	生活習慣病センター 48床	整形外科・脊椎外科、眼科、内分泌・代謝内科
5階	北病棟	皮膚・頭頸部センター 47床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、形成外科
	南病棟	呼吸器センター 48床	呼吸器内科、呼吸器外科、救急部
4階	北病棟	消化器センター 48床	消化器内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科
	南病棟		消化器外科
3階	北病棟	脳・神経センター 49床	脳脊髄神経外科、神経内科
	南病棟	循環器センター 46床	循環器内科、心臓血管外科、神経内科
2階			手術部、集中治療部、滅菌管理部
1階			救急部、栄養部、薬剤部(将来)
地下			霊安室(将来)、倉庫(将来)



1階

■アメニティ

1階には、売店・カフェの設置を計画しており、来院された方のアメニティとします。

壁には医療ガスのアウトレットを配置し、災害時にはトリアージスペースとして活用できるように計画しています。

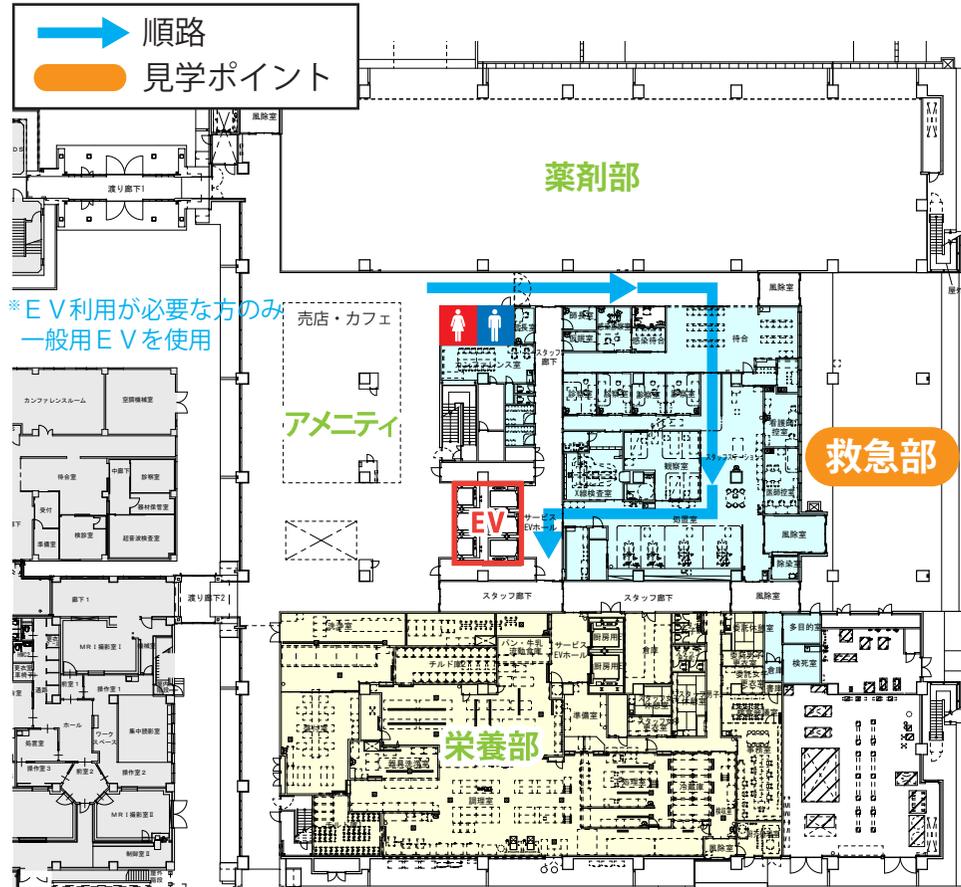
床は、木目調の柔らかい雰囲気の床材を選定し、5色をライン状に施工する事で空間に変化を出しています。壁は福井大学カラーであるブルーをアクセントに取り入れ、空間を引き締めています。

壁と吹き抜けには福井県の特産である糸と漆を使ったアート作品を設置しています。

アメニティの家具には、木を中心とした家具を配置する予定で無垢材の高級感と暖かい趣を演出し病院の顔としての雰囲気をつくります。



1階アメニティ



■**栄養部** ニュークックチル方式を採用し、万全な衛生管理のもとに適時・適温の食事サービスを行う事が可能になりました。

ニュークックチル方式とは、調理したものを急速冷却し、低温状態のまま盛付を行いチルド保管し、食事提供前に再加熱カートで加熱し配膳する方式です。これによって業務の効率化を図る事ができます。

調理室は天井換気システムを採用し、フードレスで広々とした厨房となっています。また、グリスフィルター（排気の油脂分を取り除くフィルター）の自動洗浄機能もあり、一般的な換気設備よりも静かな排気音でクリーンな空間を保つ事ができます。

盛付室（低温室）の空調には、ソックダクト（布状のダクト）を採用し、冷たい空気の流れによって作業者が不快になる事を軽減しています。



■救急部

北米ER型救急体制の構築をサポートできるよう、効率的な外部アプローチや動線を確保しました。

救急搬送された患者は救急部の処置室を経由して2階の手術部・ICUへスムーズに移動できます。

また、迅速な診断を可能とする為にX線一般撮影装置とCT装置を救急部に設置します。

独立した広い除染室をとり、処置室内に入る前に除染を行う事ができます。

さまざまな状況に対応できるよう、大きな空間をとっていますが、床や壁の色によって処置エリア・スタッフエリアと認識できるようにしています。

救急部においては、救急車直通電話通話内容を救急部各エリアに自動放送を行う設備を設けています。



救急部受付



X線一般撮影装置とCT装置

■集中治療部

集中治療部と手術部を隣接させ、専用通路を設けることで、手術後の患者のスムーズな搬送が可能になりました。

10床(個室6床)をスタッフステーションを取り囲むように配置する事で、全ての患者を視認できるようにしています。メディカルコンソールの色を5色に分け、患者さんの状態に応じて、部屋を使い分けることができます。

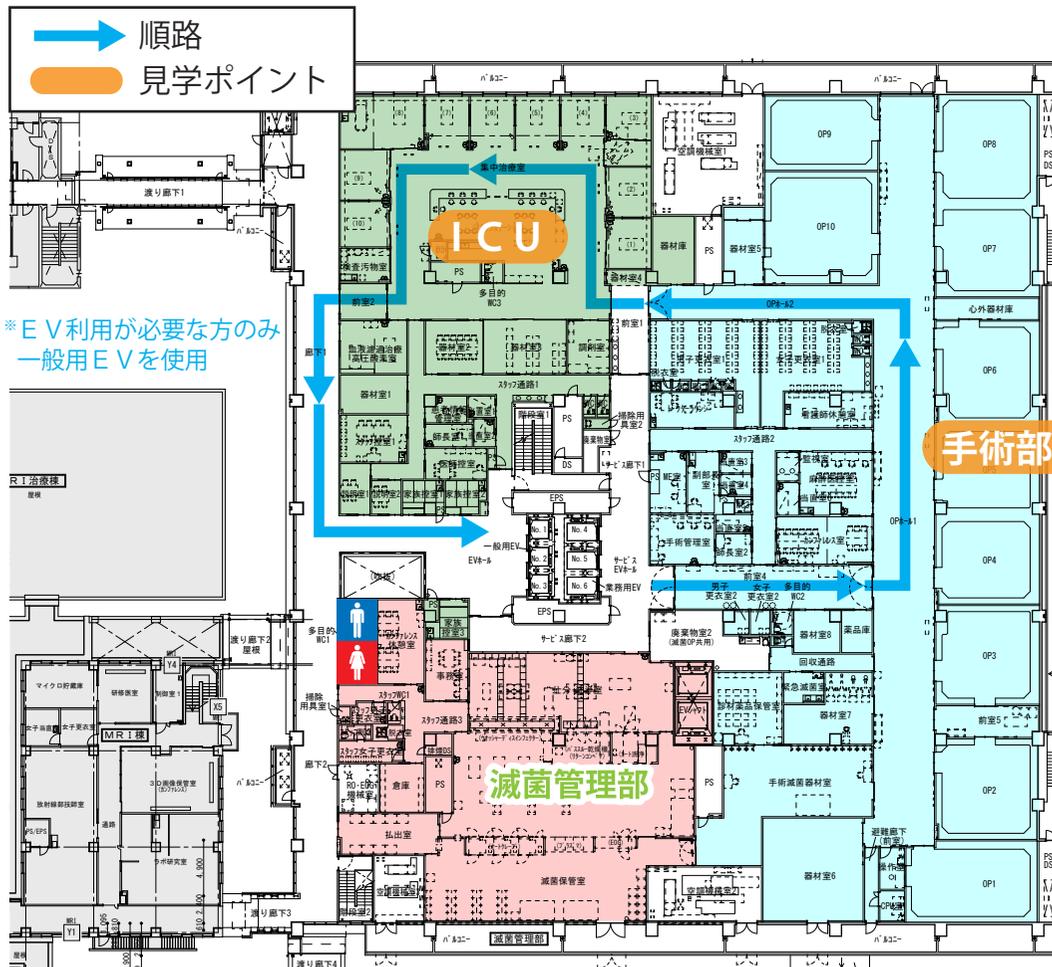
また、全ての個室は陰・陽圧の切り替えを可能にしています。

また、災害時に患者数が増える事や、将来の増床に対応し、医療コンソールユニットを器材室等に4箇所配置しています。

患者家族の控室を畳スペースで3室配置し疲れを癒やす事ができるようにしています。



ICU

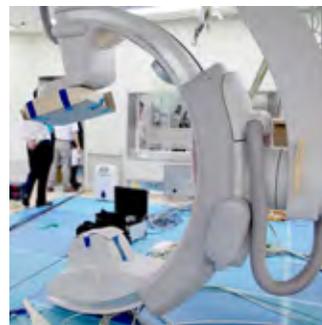


■滅菌管理部

手術部と隣接させる事で術後の不潔器材の回収と、滅菌後の清潔器材の供給をスムーズに行う事ができます。

滅菌管理部内においても、器材の流れが一方に限定するように配置しています。

また、不潔・準清潔・清潔のゾーン毎に床の色を分けています。



ハイブリッドOR

■手術部

全国屈指の広さの手術室を有し、OP1には術中CT、OP10にはハイブリッドORを設置します。既存手術部で既に運用の始まっている、ダヴィンチでの手術も行われます。

患者が入ってくる前室は木目調の仕上げとし、手術を前にした緊張を少しでも和らげるようにしています。オペホールは爽やかなブルーをアクセントに取り入れ、清潔感のある空間に仕上げています。床や壁の色分けは、広いオペホールの中で器材を置く場所を秩序づける意味があります。

手術室は術式に応じて、壁のモニターや Consent等の配置や、无影灯やシーリングの位置を決めています。



手術室



前室4

7階

■無菌病棟

7階北病棟には、清浄度をクラス10,000～クラス100(廊下含む)に保った無菌病室を17床設置しています。無菌ユニットの吹出口はスクリーンメッシュ吹出口を採用し患者へのドラフト(空調の風による不快感)を軽減し、内蔵されたLED照明により暖かみのある室内環境になっています。

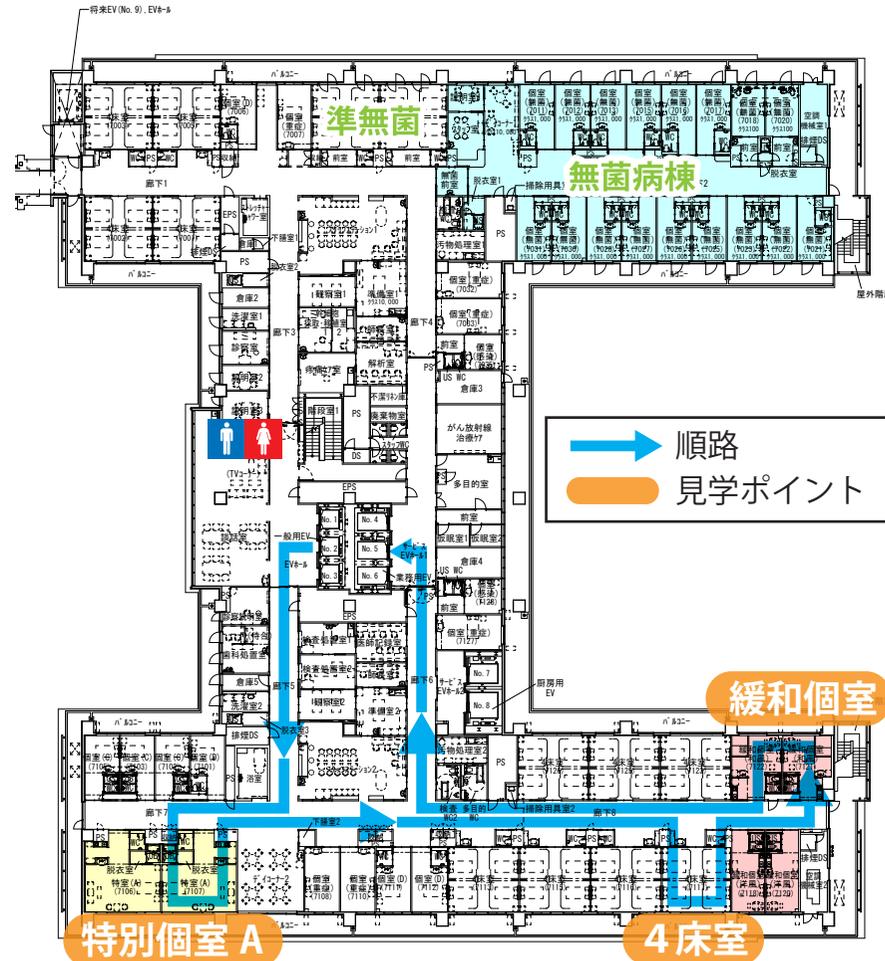
また、クリーンファンユニットは無停電電源となっており、停電時も清浄度を保つ事ができます。



無菌廊下



無菌病室



■特別個室A

眺望の良い7階南病棟には、特別個室Aを2室配置しています。

特別個室Aにはキッチンスペースとユニットバスを設けています。

タイルカーペットを敷き、壁の色合いも落ち着いた濃い色合いでまとめています。

応接家具等を配置し、更に高級感を高め、患者家族がくつろげる空間づくりをします。



特別個室A

■緩和個室

入院しながらも家に居るような気持ちで家族とも一緒に過ごしてもらえる緩和ケア病室を4室配置しています。障子や畳コーナーのある和風個室と、木目調の床材を使用した洋風個室となっています。



緩和個室(和風)



緩和個室(洋風)